

各委員からの意見（菅原委員）

分野	政策を進める上での視点	具体的な取組の例
	<p>機械の方が効率の良い仕事がある。</p> <p>人間にしかできない仕事もある。</p> <p>一局面に偏らない政策</p>	<p>事務作業のPC化で印刷等に関してはとても便利になった。それではPCがすべての作業・仕事をスピーディにしているのかという点を決してそうではないと思う。</p> <p>大量な計算式をこなすのはPCの得意な分野だと思うが、例えば私もNPO法人のような大した数値でない事務作業、経理計算などはPCでするより、手書きあるいはPCと手書きの活用のほうがミス・ロスが少なく早く仕上がるのが実態。ものごとの整理機能などはそもそも人間が考えてインプットするものではないだろうか。</p> <p>グローバルになればなるほどIT+アナログでフィットする個別的必要性のある仕事はこれからの時代にも求められるように思われる。偏らない工夫が大切。</p> <p>精密機械なら岩手産が最高とか・・・どこかそんな国があったような気がするが・・・じっくり構えて育成する産業も必要ではないかと思う。産業振興もこれまでと異なる発想、役割分担や仕組みづくりが必要になっているのではないか。</p> <p>遠野の視察で感じたことは、地元の方が自分たちの地域は人口が減っているという現実をきちんととらえていたこと。連携と役割分担により個別性のある消費に応じていたこと。林業というまとまりがあること(それしかないからという言い方もあるのかもしれないが、まとまりがあることが好印象につながった。)私の暮らす地域ではテーマが豊かにありすぎるのだろうか、とさえ感じた。それしかないからという考え方もいいのではないか。</p> <p>団塊の世代である私たちが子供のころは、職場と家庭が同じ場所にあることが多く、子供たちは親の働く姿を見ながら成長してきた。職場と家庭がすっかり役割分担して、親の働く姿を見る機会が少なくなってしまった現代こそ、親から子供へ仕事とは何なのか、親が仕事にどんなことを感じているのか伝えることが大切になっているのではないか。または親に代って伝える工夫が必要。キャリア教育の大切な一つがここにある。いずれ古今に関係なく子供が親から受ける影響は大きい。</p> <p>年に何回か高校や中学校でNPOの話をさせていただいている。活動のきっかけになったこと辛かったこと、楽しいと思うこと、活動の事例や活動する方たちの思いを伝える。生徒たちが感想文を送ってくれるが、意外にきちんと聞いていてくれるようだ。若い方はNPO活動に興味があるようだが、NPOのお仕事も楽なものではない。NPOで働いて何かの役に立ちながら(私は、仕事はもともとそういうものと考えている)生活していけるようになる仕組みづくりを次世代のために頑張ろうと思っている。</p>

就労支援	<p>奥州市民活動支援センターを会場にいくつかのテーマで居場所づくりを行っている。その一つに就労が困難な若者の居場所がある。若者サポートステーションと連携しての居場所づくりから何人かが就労し、何人かは就労出来ないままにいる。</p> <p>ニートと言われる若者たちも30代半ばを過ぎ、まもなく支援対象の39歳を過ぎる人たちも多くなってきている。40代以降の就労支援の必要性と同時に就労支援の在り方、考え方も考え直す機会ではないか。ニートだった方のご意見として、PCのプログラミングの職業訓練や勉強の機会が欲しいとか、職業訓練校が駅から遠すぎる。駅に近い空き店舗などで技能を高める職業訓練を受けられるといいという話が</p>
結婚支援と子育て支援	<p>平成20年から結婚支援として出会いの場づくりや支援者の研修会開催、ネットワークづくりを行ってきた。</p> <p>過去の干渉しあう地域社会の崩壊や家族関係の変化が、ここにも大きく影響を与えている。子供の数が少ない、給料が低いなど現代の独身者の多くが「ない」ものをたくさん背負っている。結婚の在り方、家族の在り方について工夫したり考え方を考えることで少しは楽になるのではないかと感じることが多い。結婚しやすい法律の改正も必要かもしれない。結婚支援に関しては今や大きな社会問題となっている。また、独身者同士が知り合える機会がないという意見も多いので、気軽に集える仲間づくりの場があるといいのではないか。</p> <p>また、結婚の支援は、その後の定住を考えると子育ての支援との関連があり、結婚支援はするが子育て支援は考えないのでは意味がない。よく弱者という表現をするが、課題別に考えると、誰でもが弱者という立場になる得る時代であることは間違いない。</p>
医療	<p>医師不足が最大の課題となっていると思うが、特に大きな病院に患者が集中しないための市民理解と協力が必要とされている。</p> <p>もう一つとして、自宅が医療提供の場になる「在宅医療」については、地域の医療者が参入しやすい制度をつくっている地域とそうでない地域との格差がみられる。</p> <p>私の地域では、国の方針があるので在宅にせざるを得ないが、そこに関わっているのは、一部のそうせざるを得ない医療者が何人かがんばっている状態。こんな地域が案外多いのではないだろうか。</p> <p>制度、仕組みがないので他が参入して来ないということもあるのではないか。「在宅医療」に関しては、一日も早い行政の参加と仕組みづくりが必要と思われた。</p> <p>医師不足を語る前に、一部の医師に過重な労働の負担がかからず、地域の医療者、行政、市民が連携して地域医療の体制を整え、支える地域は、医師であっても、誰であっても暮らしやすい地域になるのではないか</p>